

第1章 まちの将来像

1. 基本理念

「エコミュージアムによる ふるさとルネッサンスの実現」

2. 目指すべきまちの姿

「小さくてもキラリと光る 誇りと活力に満ちた ふるさと勝山」

21世紀を迎えて最初の10年が経過し、この間、平成17年には戦後一貫して増加してきた日本の総人口が初めて減少に転じるなど、社会経済環境は大きく変化してきました。

この10年の間に勝山市では、平成14年6月策定の第4次勝山市総合計画において市の再生と未来への進化を目指した「ふるさとルネッサンス⁴」を理念に、勝山市エコミュージアム構想に基づいたまちづくりを進めてきました。その結果、市民の勝山市に対する愛着、そして勝山にゆかりのある「ふれあい市民⁵」のふるさと「勝山」に対する関心や思いが高まってきました。また、スローシティ⁶の概念に代表されるように人々の価値観や豊かさの尺度も多様化してきています。

次の10年間のまちづくりの設計図となる第5次勝山市総合計画では、この流れを引き継ぎ、私たちが過去から受け継いできた豊かな自然環境をはじめとする大切な遺産を最良の形で次の世代へ伝え、多様な価値観を持った人々の要請に応えることができる勝山市のさまざまな個性を磨き魅力に高めることで、長期的な展望に立った持続可能なまちづくりを進めていきます。

働く場の確保や広域交通体系のさらなる整備・充実に向けた取り組み、産業振興および観光振興、人が住みたくなる環境整備など、時代の変化を先取りした政策を積極的に推進し、「選択されるふるさと」、「誰もが住みたくなるまち」の実現による人口減少の抑制を目指します。

そして、主体的な市民力、地域力の向上を図るため、行政の施策をきっかけとして市民のまちづくりに対する意欲を高め、これを支援していくことで、50年先、100年先までも持続する未来を見通した自律的なまちづくりを進めることによって、「小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山」を実現します。

4 ※ふるさとルネッサンス

平成13年から勝山市が掲げている、勝山市の「再生」と「未来への進化」を目指し、元気な市政を実現するための理念。

5 ※ふれあい市民

関西勝山会、東京勝山会の会員や出身者など勝山市にゆかりのある方々および転勤や田舎暮らし体験交流などを通じて勝山市に愛着をもっていただいている勝山ファンの方々。

6 ※スローシティ

イタリアのスローフードに端を発したスローシティ運動をもとにしたまちづくりの概念。市民のアイデアや活動を地域づくりに主体的に活かし、スローなライフスタイルにより人間回帰のまちを目指す考え。

3. 基本政策

(1) エコミュージアム⁷の新たな展開による市民力の向上

勝山市は、平成14年10月策定の「勝山市エコミュージアム推進計画」に沿って、わがまちげんき発掘・創造・発展の各事業を展開し、市民が主体となって市内各地区に埋もれていたさまざまな遺産や魅力の再発見とその活用の取り組みを支援するなど、エコミュージアムによるまちづくりを進めてきました。

その結果、1300年の歴史を誇る「国史跡白山平泉寺旧境内」に代表される勝山市の貴重な文化財をはじめとする自然、歴史、産業、地質・地形など、さまざまな遺産を再認識した一人ひとりの市民のふるさと勝山に対する自信と誇りを高めることができました。

今後は、環境、福祉、産業、教育など、幅広い分野における政策推進のベースとして、10年後の勝山市が多様な価値観の魅力に溢れた「選択されるふるさと」の実現に向け、エコミュージアムの新たな進化を図ります。

① 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの推進によるまちの活性化

そのひとつとして「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」を推進します。

平成21年10月に勝山市全域をエリアとする「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」が日本ジオパーク⁸に認定されました。ジオサイトとして位置づけられた地質・地形遺産をはじめ、これまでにエコミュージアムにより再発見された自然、歴史、産業遺産や伝統行事など勝山市の魅力を保全、保護していきます。

そして、これらの遺産について市民や子どもたちが学び、情報を共有し、その結果を広く発信し、勝山市固有のジオツーリズムを展開して知的好奇心に応えていくことで観光誘客や経済活動の活性化を図ります。

② エコ環境都市⁹の実現

さらに「エコ環境都市の実現」に向けた政策を推進します。

これまで市民の力でエコミュージアムに取り組んできた結果、アメリカの経済誌「フォーブス」電子版¹⁰の中で勝山市は「世界で9番目にクリーンなまち」としてランクイン

7 ※エコミュージアム

1960年代にフランスで誕生したまちづくりの手法。ある一定の地域に残された史跡や建造物などに着目し、これらを将来にわたって展示、活用することでその地域を「屋根のない博物館」とする構想。

8 ※ジオパーク

地質・地形など地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園。ユネスコの支援を受けている世界ジオパークネットワークにより、世界各国で推進されている。日本では日本ジオパークネットワークが組織されている。

9 ※エコ環境都市

エコミュージアムの推進によって、エコロジーに基づいたクリーンで環境に配慮した都市を目指していくといった勝山市の考え方を表現した勝山市でつくられたことば。

10 ※フォーブス電子版による評価

2007年にアメリカの経済誌フォーブス電子版で勝山市は世界で9番目、アジアでは最もクリーンなまちとして掲載された。

されるなど、勝山市の環境を大切に作るクリーンなまちづくりの評価が定着してきました。また、勝山をきれいにする運動に代表されるように市民の主体的な環境美化意識に基づく自主的な活動の輪が広がっています。

勝山市の美しい景観や自然豊かな環境に対する市民の思いをさらに育み、低炭素社会、循環型社会を構築することにより、「安心して子育てができる環境」、「誰もがいきいきと暮らせる環境」を目指し、環境負荷の少ないエコロジーに基づいた「人が住むための環境」を備えた「エコ環境都市」の実現を図ります。

(2) 勝山市の基盤となっている各地区の地域力の向上

勝山市の基盤となっている1町9か村から引き継がれてきた現在の公民館ごとの10地区と、その地区を構成している集落などの各区においては社会経済環境の変化、特に少子高齢化による人口減少によってコミュニティとしての活力が失われつつあります。

人口減少社会においても雪などに対する地域防災対策の充実や貴重な伝統文化の継承を図っていくために、市内10地区それぞれの活性化を図るとともに、その構成単位である集落などの各区のあり方について新たな展開を図ります。

また、勝山地区を中心とする市街地と周辺の中山間地域それぞれの地域の特質、規模に応じた柔軟な施策の推進を図り、新しい時代に対応した持続可能なコミュニティの実現を目指します。

① 基礎的コミュニティとその集合体である地区の活性化

地域住民が日々直面している生活環境面の要望に迅速に対応するとともに、勝山市の大きな課題である「克雪」や超高齢社会における高齢者の移動手段の確保を図ります。

また、災害時に欠かすことのできない共助の単位としての基礎的コミュニティと行政とのかかわりについて見直しを検討し、その集合体である市内10地区の活性化を図ります。

特に、他の地区に先行して過疎化の進んでいる北谷地区の活性化、再生に向けた取り組みを先行的、優先的に実施していくことで、市内全域の活性化、再生へとつなげていきます。

② 各地区の特色ある地域づくりの推進

市内には、これまで培ってきた固有の伝統、文化、10年間にわたりエコミュージアムで発展させてきたまちづくり活動や地域の遺産の数々、そして地理的条件などそれぞれに個性あふれる10の地区があります。

この多様性に富んだ10地区がそれぞれ活性化してはじめて、勝山市全体の活性化や発展を図ることができます。

行政の施策をきっかけとして市民のまちづくりに対する意欲を高め、地域住民が主体となった地区の個性や魅力を生かした活動を活性化し、この活動を行政が支援することで、市内10地区の特色ある地域づくりを推進していきます。